



MARIANISTES

—— マリアニスト ——

「マリアニスト」創刊100号記念

マリア会 清水 一男

「マリアニスト」誌は今号をもって創刊100号の節目を迎えました。最初のMLC奉獻者が誕生した1992年10月に創刊され、毎年6回、隔月で発行し丁度17年で、今回100号という記念号の発行を祝うことになりました。

この間、故人となられた初代の編集長の小原忠郎さん、後を継がれた石井三雄さんをはじめ、歴代の編集責任者、また、多くの方々が編集作業に関わってこられました。原稿を執筆してくださった方々は勿論、原稿依頼、編集、印刷、発送などの編集作業を、17年間、確実に続けることは、相当の熱意、忍耐、努力、そして協力なしには達成できないことです。これまで関わってこられたすべての皆様にこころから感謝し、また、お祝いを申し上げたいと思います。

私たちは結婚記念日、創立記念日など、様々な機会に記念日を祝いますが、このような記念日を迎え何かを“記念”するとき、私たちは何をしているのでしょうか。実は三つのことを行なっているといわれます。①過去に向かっては、記念する出来事を思い起こすこと。何があったのか、何を目的として始まったのか、何が約束されたのか、などを思い起こすのです。②記念を行っている現在に向かっては、それを体験すること。最初の出来事、その目的、約束、狙いなどを、今、生きて体験することです。③将来に向かっては、宣言すること。その記念する内容をこれからどのように生き

るかを考え、計画し、こう生きると宣言することです。

このような記念の意味を、私たちの会報「マリアニスト」誌100号記念に当てはめてみるとどうなるでしょうか。「マリアニスト創刊号」で富来師は次のように書いています。「マリアニスト信徒共同体に属する方の中から、お互いに情報を交換し、相互の交わりを深めるための機関紙がほしいとの声があがりました。・・・この機関紙を通して、シャミナード師に与えられたカリスマを生きようとする信徒も修道者も、互いの交わりを深め、自らに与えられた使命を生き抜く力が得られるよう願います。」マリアニスト精神の説明、国内や海外のマリアニスト家族のニュース、種々のお知らせ、MLCの各グループ紹介など、最初の趣旨に沿った編集が17年間継続され、マリアニスト家族内の情報交換と交わりを深めるという大きな役割を果たしてきました。

創刊100号の記念を祝いながら、私たちは今、将来に向けて何を宣言するかに想いを凝らしています。現編集長の石井三雄さんの挨拶にもありますように、会報マリアニストは今号をもって一応終刊となりますが、アンケートの結果、8割の方が継続を望んでおられます。11月に開催されるマリアニスト家族評議会において、皆様のご意見を参考にしながら今後のことが決定されます。皆様の更なるご意見をお待ちしております。

第3回北東アジアマリアニスト家族評議会（NECFM）に参加して

Sr.伊藤昌子

去る10月10日汚れなきマリア修道会韓国地区本部に於いて日韓のFM評議会が行われた。日本からの参加者はマリア会3名（清水、池田、田上）MLC2名（川口、石井）汚れなきマリア修道会3名（小林、野村、伊藤）計8名である。韓国側からはSM、FMI、MLCの総評議会及びソウル地区と仁川地区からそれぞれ評議員が出席され、日韓マリアニスト各枝の代表合わせて22名と総本部霊性部長Sr.金スザンナが終日会議に参加された。最初に総長M.ジョエルの挨拶があり、“世界のマリアニスト家族の中でこのような日韓の親密な交流は他の国にとって先駆者的役割を果たしている”との励ましの言葉を残して退場された。その後、議題に沿って会議が進行された。はじめに各枝ごとに現況報告と分かち合いがなされ、次に次回開催時期と場所が決定された。

—2011年10月8日（土）日韓FM評議会
シャミナード修道院にて
9日（日）世界マリアニスト祈りの日

この夏、ケニアのナイロビでMLC総会が開催された。韓国からの参加者3名は、その後引き続きインドのFMIのシスター方の共同体を訪問し、その時の様子をパワーポイントによって紹介して下さった。

会議は10時から17時まで途中小休憩を入れながら行われた。韓国地区シスター方の温かい心遣いを受け、家庭的雰囲気の中で日韓マリアニストの歩み寄りがさらに深まるのを参加者一同実感できる時間を過ごさせていただいた。

翌日は「世界マリアニスト祈りの日」である。今年の巡礼地はコンゴ民主共和国のキンシャサにあるファチマの平和の聖母巡礼堂で、特にマリアの母性的取次ぎを願

い平和のために熱心な祈りが捧げられる所である。韓国に於いて会場となったSMの建築予定地は、ソウルから北方に向かい車で40分位離れている。小高い丘の上に空き家となった家のベランダに祭壇を設け、芝生の庭にテントを張り会衆席が準備されていた。最近叙階されたばかりの新司祭シモン師と日韓マリア会司祭6名の共同司式で11時からミサが行われた。韓国のMLCのメンバーが230名というのにもかかわらず、参加者が400名に及んだのは、近隣の教会の会報に世界祈りの日についてのお知らせをし、参加を呼びかけたとのことであった。これはマリアニストの存在を知らせる良い機会となったことと思う。ミサ後、昼食は簡単に“うどん”。午後のプログラムは清水師の「マリアニストの共同体」についての短い講話をお聞きした後、たくさんの意向をこめて“光の神秘”と“栄光の神秘”を黙想しながらロザリオの祈りを捧げた。老若男女の祈りの唱和する声が青く澄み渡った大空高く響き、聖母のみ手を通して神のみもとに届けられたであろう。

驚いたことに、この時、家のすぐ横で2頭の豚が丸焼きにされており、香ばしい香りが漂ってきた。祈りが終わって間もなくバーベキューパーティーのはじまり、韓国ならではのスケールの大きさ、開放性、積極性、活気に満ちた家族的交流に感嘆した。参加者一同マリアニストマーク入りの傘をお土産にいただき、身も心も満たされて感謝のうちに散会した。次回は東京で再会できることを期待しつつ。



連載 マリアへの奉獻（10）

マリア会司祭 富来 正博

三番目の疑問は洗礼にかかわるものです。先に洗礼がもっとも基本的な奉獻であることを説明しました（第89号参照）。他の奉獻は洗礼に基礎を置くものです。それでは洗礼によって神に奉獻された者は重ねて奉獻される必要はないのではありませんか。そうです。私たちがその奉獻を完全に生きることができれば、一度限りの奉獻で十分だったでしょう。しかし実際は旧約時代の祭司が自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを捧げる必要があったように、私たちも奉獻を毎日更新する必要があります。復活徹夜祭で洗礼の約束を更新しますが、これは今述べたことを象徴する儀式です。そしてこれは一年一回で済まされる儀式ではなく、毎瞬間生きなければならない現実です。マリアへの奉獻はマリアの取次ぎによる洗礼の更新と理解することができるでしょう。

最後に、「私はマリア様に身を捧げる資格などありません」と仰る方々にお答えしましょう。あなたは洗礼を受ける前に「私は洗礼を受ける資格などありません」と考えましたか。わたしたちは罪びとであると自覚したからこそ洗礼を受けたのではな

いでしょうか。そして今もなお自分の弱さを日々味わっています。独りで洗礼の約束を守り続けることはできないと弱音を吐く私があります。だからマリアのお取次ぎを願うのです。強い信仰を持ち、熱心で人の模範になる生き方をしているから自らを奉獻する資格が生まれるのではありません。

「マリアへの奉獻」の説明を終えるにあたって、マリアニストとして奉獻する意義について付け加えておきます。マリアニスト家族の創立者福者シャミナードは救いの計画におけるマリアの役割について深く考察しました。すべての人をもう一人のキリストとして身ごもり生むという役割です。マリアはすべての人をキリストの許に導くのです。

マリアの使徒的使命とも呼ばれるこの働きに参加し、微力を捧げてお助けしようとする側面がマリアニストが行うマリアへの奉獻に含まれています。カナの婚宴において「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」（ヨハネ2章5節）といわれたマリアのお言葉を、マリアニストは奉獻への招きの言葉として聞き取るのです。

マリアニスト奉獻生活の説明会 ー奉獻生活への歩みだしー

下記のとおり説明会を開きます。ご都合のよい時にご参加ください。

内容はいずれの会場も同じです。

対象：カトリック信者の独身女性（45歳まで）

第1回 2009年11月14日（土）

14:00～16:00

会場：町田修道院

〒194-0032 東京都町田市本町田 3050-1

電話 042-722-6301 / Fax 042-725-6317

第2回 2009年11月15日（日）

14:00～16:00

会場：調布修道院

〒182-0016 調布市佐須町 5-28-5

電話 042-483-3525 / Fax 042-480-3881

申込：参加を希望される方は、11月11日（水）までに電話、或いはe-mailでご連絡ください。

汚れなきマリア修道会 調布修道院

TEL 042-483-3525（説明会担当者）

e-mail : marianist@marianist.jp

お知らせ

◆2010 マリアニスト家族の集い◆

「マリアニスト家族の集い」が以下のように開催されます。

よい交わりの場となりますように、皆様のお出でをお待ちしております。

日時：2010年1月17日（日）
10:30～15:00

会場：暁星学園聖堂
(親睦会の会場は地下食堂となります)

なお、詳細につきましては、各共同体を通じてお知らせいたします。

編集後記

この広報に参加して11年が過ぎました。大したことはできなかったのですが、それでもこの活動が一番長く続いた仕事になりました。隔月というペースであったことは勿論、やはり周りの方々の寛容に支えられたからだと思います。「宗教は人なり」とはある作家の言葉ですが、僕も同じような思いでいます。信仰薄い人間としては、人との関わりにおいてしか宗教を捉えることができなかったからです。広報その他の活動を通じて、この人が信じているのなら、自分ももうちょっとがんばってみようと思わせてくれ人たちとさらに出会うことができました。これらの方々に感謝しつつ、これからの広報のあり方に期待したいと思います。

『マリアニスト』100号をお届けします。皆様お体大切に。(K. U.)

信徒のための黙想会～①

【前号のお知らせに誤りがありました。
お詫びして、訂正いたします】

テーマ：その名はエンマヌエルと呼ばれる
日時：2009年11月28日（土）一日黙想
10:00～16:00

場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院
指導：Sr. 田中昌子（汚れなきマリア修道会）
参加費：1500円
申込み：町田修道院 S r. 高尾まで
TEL 042-722-6301 FAX 042-725-6317

信徒のための黙想会～②

テーマ：神の現存のうちに生きる
日時：2010年1月23日（土）16:00
～1月24日（日）16:00

場所：汚れなきマリア修道会 町田修道院
指導：富来正博神父（マリア会）
参加費：5500円
申込み：①に同じ



編集部メンバー

発行 『マリアニスト』編集部
気付 「汚れなきマリア修道会」
町田修道院 清水一男神父
〒194-0032
東京都町田市本町田3050-1
TEL 042(722)6301
FAX 042(725)6317
HP: <http://www.marianist.jp/>